

大分県新長期総合計画策定県民会議 第2回元気部会 委員発言要旨

日時：令和5年11月1日(水)11:00～12:10

場所：レンブラントホテル大分 2階 久住の間

No.	項目	発言要旨
1	元気1 (1) 農業	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、農業に興味を持つ若い人が増えている。アルバイトではなく正社員としての就農を希望する若い人も増えている。 ・若い就農者はドローンにとっても興味を持つ。ドローン講習をどんどん受けてもらいなど、農業の機械化を積極的に進めていきたい。 ・高齢農家も若者をスムーズに受け入れてくれる。若い人が働きやすい環境が整ってきている。農業がもっと儲かる産業になるよう、機械化を更に進め、10年後は「きつくない」「汚くない」農業の実現を目指したい。
2	元気1 (2) 林業	<ul style="list-style-type: none"> ・山林所有者の立場からも、伐る・植える・育てるという循環型林業を行えることが理想。林業そのものの発展に加えて、環境保全にも貢献できる山林を育てていくことで「循環型林業の確立」という10年後の目指す姿に近づけていきたい。 ・林業は、行政と林業事業体、個人の山林所有者などが連携を図ることで、新たな付加価値を生み出せる産業になり得ると思っている。 ・林業に関わる仕事がしてみたいという若者が少しでも増え、そのチャレンジを手助けできるような大分の林業をつくっていききたい。
3	元気1 (3) 水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食を通じて魚食普及を進めてほしい。家庭で魚を食べることが減ってきた中で、給食でハモを食べたこどもからその美味しさを聞いた親御さんが「どこで買えるのか」と問い合わせしてきたことがあった。 ・県内の旅館・ホテルでの県産魚の利用が少ないと感じている。県外に出張すると大分の魚は美味しいといつも言われる。観光協会とタッグを組ませてもらって、県産魚の消費拡大に取り組んでいけたらと思っている。
4	元気2 (1) 事業承継	<ul style="list-style-type: none"> ・私も2年前に事業を承継したが、大分県のアトツギ支援は全国的にも手厚いと感じている。支援のおかげもあり、継いだ家業を上手く展開することができた。 ・他県では、地方銀行とタッグを組んで支援をしている例もある。事業を承継した企業が、新たなチャレンジを考案する先には、資金調達をはじめ事業化に向けた様々な準備が必要。そうした部分をサポートしていただくためにも、地方銀行と連携したアトツギ支援の取組は有効と考える。
5	元気2 (1) 事業承継 スタートアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営は、従業員があって成り立つものであり、我々企業は、従業員に働くことの大切さを感じてもらいながら、利益を出し、納税していく義務を負っている。そういった正しい企業経営の根幹というものをしっかり理解した上で、事業承継の会社もスタートアップ企業も大分県の経済活性化に貢献していければと思っている。
6	元気2 (2) ものづくり 産業	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の稼ぐ力を高めるためにも、競争力のあるコアな技術開発への支援を進めてほしい。具体的には、 <ol style="list-style-type: none"> ①産業科学技術センターや県内大学等研究機関、企業による共同研究 ②県内企業の技術の持ち寄りによって製品開発が進むような仕組みづくり ③県内企業の特許出願・取得 への支援をお願いしたい。
7	元気3 (1) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光では、別府・湯布院集中型から県内回遊型への促進が必要 ・そのためには、①別府市と松山市の観光交流都市協定のような周遊を促す取組の全県拡大、②APUのサステイナビリティ観光学部との積極的な連携、③県立総合文化センターを中心とした県内各地のホールとの連携強化等により、大分の魅力を国内外に発信していくことが有効と考える。

No.	項目	発言要旨
8	元気3 (1) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の国々は、実は九州のことをあまり知らない。その中に大分県があるという意識が必要。まずは、九州各県とともに九州を世界にアピールしていくことが重要だと考えている。 ・地域の価値のあるものを発掘し、DXを活用して国内外に発信していくことも大事だと思う。
9	元気3 (2) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・観光の10年後の目指す姿は私のイメージと同じ。少し具体的な言葉にすると、暮らしている人が見える観光、安全な食やエネルギーなど循環を意識した観光、地についた目の前の人を大切にするような観光は、海外にも魅力が伝わると思う。 ・空港から観光地などへのアクセスの便利さは当然大事だが、一方で、観光地に着いた先ではあえて多少の不便を残しておくのも面白いと思う。例えば、車で簡単に行くのではなくてシェアサイクルを置いてちょっと不便にしておく、道路もそんなに大きくつくらないとか。そうしたことが人と人を巡り合わせ、交流人口が深まっていくことに繋がると考えている。
10	元気3 (2) 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・統計では2030年には世界の人口の22億人、4人に1人がムスリムになる。私自身もムスリムのこどもたちが食べ物とかお祈りをする場所を気にする声をよく身近で聞くようになった。ムスリムフレンドリーな配慮があると、世界の4人に1人が来やすい場所として大分県が選ばれることになるのではないかと。
11	元気4 (1) 海外展開	<ul style="list-style-type: none"> ・海外展開のウイングを欧米に拡げていくには、国際基準認証の取得を県が伴走型で支援することが重要。競争力向上のためにはHACCPやCEマーク、ハラールなどの認証取得が必要になってくる。 ・貿易関係の書類やビジネスレターの作成が煩雑という企業の声もある。代行業者を紹介できるネットワークがあれば、より海外に挑戦しやすくなるのではないかと。 ・企業が海外への販路拡大に乗り出す際に、実際に海外で売れるのかを判別してもらえるようなテストマーケティングの機会をつくることも重要だと思う。
12	元気4 (2) 外国人との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査の結果で、国際交流の促進に関する県民の関心が低いことが気になっている。「外国人は何かとお世話が大変な存在」といった意識ではなく「多様な人がいることで社会がより豊かになる」というマインドセットを県民に促すような取組が必要ではないかと。 ・教育面では、拠点校の設置や日本語指導の制度改善など、小中学校での外国人児童生徒等教育の充実が必要 ・バカロレア認定校は全国に207校あるが、大分県にはまだない。県民と外国人を切り分けるインターナショナルスクールではなく、本県のこどもたちとともに学ぶような学校の設置ができないだろうか。
13	元気4 (2) 外国人との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が県内で仕事をしていく場合、やはり自身のこどもの教育のことを考える。県内にインターナショナルスクールがなければ、長期間の仕事をしていくことは難しいと思う。 ・人手不足の解消のためにも、県内の留学生に卒業後も県内定着してもらうことが重要。そのためには、県内企業と留学生の接点をつくったり、外国企業を誘致して外国人や留学生から選ばれる職場を県内につくっていくことが大事だと思う。
14	元気4 (2) 外国人との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人として今も大分県で暮らす人間として実感してきたのは、相談する窓口がなかったということ。外国人が疎外感や孤独に悩まないよう、気軽に相談できるような窓口が見える形で拡げていただきたいという思いがある。
15	元気5 (1) 人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な10年後のビジョンを実現するためには、基盤としての人材確保が不可欠。10年後を見据えてどうやって今からその基盤をつくっていくのか、人材確保は激しい地域間競争、海外にさえ持って行かれる厳しい時代を迎えつつある。全分野共通の課題として先手を打っていくことが大事

No.	項目	発言要旨
16	元気5 (1) 人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・就労人口の高齢化は避けられない。高齢であっても仕事を続けられるよう、アシストロボット（重いものを運ぶ）やセンサー（視力低下の代わり）を導入してはどうか。また、そうした設備のメンテナンスなどの人材も育てていけば、産業振興を支える人材育成にも繋がっていくことが期待できる。 ・移住促進は、男性だけに焦点を当てるのではなく、パートナーやお子さんを含めて一家で来てもらうにはどうすればよいか等、家族全体に目を向けたサポートが重要。生活と仕事、環境というパッケージで見せれば、大分県はきっと選ばれる。
17	元気5 (2) 女性活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・中国や香港では、結婚や出産を機に仕事を辞める女性は非常に少ない。これは、女性が自身のキャリアや仕事に誇りを持っているためだと感じている。日本の女性も今後はそういうステージに進むべきであり、女性が自身のキャリアや仕事に誇りを持てるような研修や育成プログラムも必要と考える。
18	元気5 (2) 女性活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍の実現のためには、女性の応援だけでなく、こども・子育て支援や教育の充実など、他分野の政策・施策との連携が重要。横串にそして深く、分野横断的に取り組んでいきたいと考えている。
19	元気6 (1) 芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県は外国人住民率が高く、留学生も多いが、そういう特徴が活かされているかという点、そうでもないような気がしている。 ・福岡にある総合図書館の絵本コーナーには、様々な国の絵本が置いてある。言葉は分からなくても、色彩、絵本のサイズなどが国によって全然違う。10年後の大分県を考えたとき、「わが町に来る外国人が1人1冊ずつ自分の国の絵本を持ち寄れば国際的な絵本図書館ができるのではないか。小中学校に貸し出したり、移動図書館もできるかも。」そんなことを想像している。
20	元気6 (1) 芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・自社が主催するイベントに地元の中学・高校の吹奏楽部をお招きし、演奏してもらったが、学生の発表の場を確保する観点からもこうした活動は今後も進めていきたい。観光事業者として芸術文化との連携に取り組んでいきたい。
21	元気6 (2) 芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・大分のブランド力を高めるという点で、「ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会」の臼杵市への誘致やOPAM開館15周年を記念した「大分カルチャーエキスポ」の開催などの取組について、これらは大分経済同友会の提言書のロードマップにも書かれてあることだが、ぜひ新長計の取組に盛り込んでほしい。
22	元気7 (1) スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・国体に出場するアスリートは、大分で生まれ、大分の選手として出場することに誇りを感じている。こうした人材が、10年後の目指す姿の②の「高度な専門知識や指導技術を有する指導者」として、県内の次代のアスリートを育てていくことが大事
23	—	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な政策・施策を計画策定後にどのように評価していくのか、予算とあわせてどう進めていくのか、そういう視点も入れて議論していただきたい。